

令和6年度第1回 政策形成実践研修（短期集中研究会）

ふくしま自治研修センター政策支援部では、自治体等職員の政策形成能力の向上を目的として、政策研究会（https://www.f-jichiken.or.jp/support_policy/seisaku-kenkyukai/）を行ってきました。

令和6年度は、より多くの方が参加しやすいよう、政策研究会のカリキュラムを、政策形成の基本プロセスを学ぶことにポイントを絞り、より短期間で実施する、「政策形成実践研修（短期集中研究会）」をスタートさせました。

1 研修内容

(1) 政策形成の基本プロセスを短期間で学ぶ

本研修は、ふくしま自治研修センターでの講義・研究活動と、現地でのフィールドワークを組み合わせ、約1ヶ月間に5日間の日程で行います。研修の間には、研修生による自主学習も想定しています。

		← 約1ヶ月間 →										
研修日	1日目		2日目			3日目		4日目		5日目		
場所	ふくしま自治研修センター（1泊2日）					現地		ふくしま自治研修センター（1泊2日）				
研究活動の流れ	モデル自治体の選定	現状の把握	目標の設定	課題の設定	事業の検討	フィールドワークの計画	自主学習 フィールドワーク（仮説検証）	自主学習	事業提言のまとめ		発表練習	発表会

(2) 研究活動をグループワーク形式で実施

研修生を5人程度のグループに分け、グループ内で話し合いを行いながら研究活動を進めていきます。



(3) プレゼンテーションを学ぶ

最終日には、センター所長をモデル自治体の首長に見立て、各グループで考えた事業を発表します。研修後半では、聞き手の視点に立ったプレゼン資料作りや発表の仕方を学び、発表に向けた練習を行います。



2 本研修のポイント

(1) モデル自治体が実際に抱える課題を研究対象にする

研修生の所属団体の中からモデル自治体を選定し、モデル自治体の抱える課題をグループで話し合っ決めて、更に、解決に向けた事業を考えます。

ひらたファン獲得事業 事業予算 7,700千円 **Aグループ**

現状課題と解決の方向性
 ① 人口減少懸念
 ② 情報発信力不足

課題解決のために
 ・情報発信力の強化
 ・継続的な情報提供
 ・持続可能なムラへ
 シフト
 が必要

目標
 交流人口(平田村SNSフォロワー)数5,000人
 ・興味心層へのアプローチ強化
 ・交流人口から関係人口への仕掛けづくり
 ・協働を促進し、クラブファンとの関係
 ・自発的に発信してくれる方の出現

【#ここらいるどるひらた】(対策)
 ・20~30代女性(からい)
 ・無関心・交流人口(内容)
 ・フォトコン
 ・お礼スタンプキャンペーン
 ・各種別冊などの提供設置

Instagram (対策)
 ・30代~40代の若年層(からい)
 ・無関心・交流人口(内容)
 ・「夏休」チャンネル
 ・地域おこし協力隊の買戻
 ・協働を促進し、協働商品

LINE (対策)
 ・村内の全戸登録(からい)
 ・交流一関係一移行(内容)
 ・内向け/外向けの情報発信力を強化
 ・生活、観光、アンケート など

ファン獲得=持続可能なムラへ

研修生成成資料 (モデル自治体：平田村)

満喫「田村市の夏」周遊スタンプラリー事業 6,400千円 **Bグループ**

課題
 1 観光客(20万人)の誘引(10万人)があふくまで一掃集めた状況であり、あふくまでからの観光施設への流入を要する数値が少ない
 2 季節性等の観光地が多くある反面、多くの観光施設で観光客の滞在時間が短い

解決
 1 観光客を田村市全域へ誘導し、滞在時間の延伸を図る。
 2 交流人口の拡大および地域経済の活性化に繋げる。

事業概要
 田村市の観光資源を周遊してもらうために、「田村市の夏」をテーマとして、特設のスタンプラリーを実施する。
 さらに、観光客のニーズを3歳で提供していただく方には車で電子クーポンが当たる特典をつけて、観光客の増加につなげる。

ターゲット：市内観光施設を訪れた方(子どもも持ったファミリー層)
 ◎期間：7月~8月(子どもたちの夏休みに合わせて開催)
 ◎場所：市内観光施設(あふくま洞、ムジムランド、グリーンパーク新築等)
 ◎内容
 ・観光施設での見る・食べる・体験するにより、各所でスタンプを収集
 ・スタンプラリー台紙を提供により人権等の酒を促進し、観光客の滞在を促進
 ・2つ以上のスタンプを集めることで、電子クーポンが当たる特典に応募できる
 ・観光施設で撮影した写真を田村市が指定したSNSで「#田村の夏を満喫」などとタグ付け投稿した方に抽選で電子クーポンが当たる

事業効果
 1 観光客を市全域へ誘導
 2 観光客の市内在留時間の延伸
 3 観光・SNSの活用により交流人口の増
 4 観光施設開業・電子クーポン活用により地域経済の活性化

研修生成成資料 (モデル自治体：田村市)

(2) フィールドワークを通し、事業づくりにおける現場視点の重要性を学べる

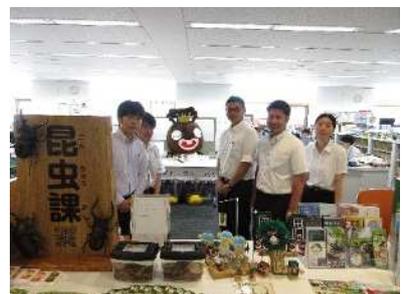
自分達が考えた事業の方向性が現状と合っているのか、実際に現地に行って現状を視察したり、関係者に直接話を聴き、結果を事業づくりに反映させます。現地での活動を通して、現場の視点を踏まえた事業づくりの重要性を学びます。



ジュピアランドひらた



道の駅ひらた



田村市観光交流課

(3) 少人数による手厚い指導体制

行政経験が豊富な総括支援アドバイザーと政策支援部員が、講師として講義や研究活動の指導を行います。



3 実施状況

(1) 令和6年度第1回（7月～8月）

県職員4名、市町村職員6名の計10名が集まり、5人ずつ2つのグループに分かれ、次の日程で実施しました。

研修日		場所
1日目	令和6年7月8日（月）	ふくしま自治研修センター（1泊2日）
2日目	令和6年7月9日（火）	
3日目	令和6年7月17日（水）Aグループ	平田村（フィールドワーク）
	令和6年7月23日（火）Bグループ	田村市（フィールドワーク）
4日目	令和6年8月7日（水）	ふくしま自治研修センター（1泊2日）
5日目	令和6年8月8日（木）	

(2) 研修生の感想

研修生からは、「政策形成の過程（手順）を学ぶことができた」、「普段の業務では経験することのない政策形成の流れを学べた」、「課題設定から政策形成まで一連のプロセスを学べた」といった意見が聞かれました。

また、本研修に参加して成長したと思う点については、「企画立案力」、「発信力」、「プレゼン力」、「パワポ資料の作成」の他、「リーダーとして周囲をまとめる力」、「調整能力」などが上げられました。



研修生と講師